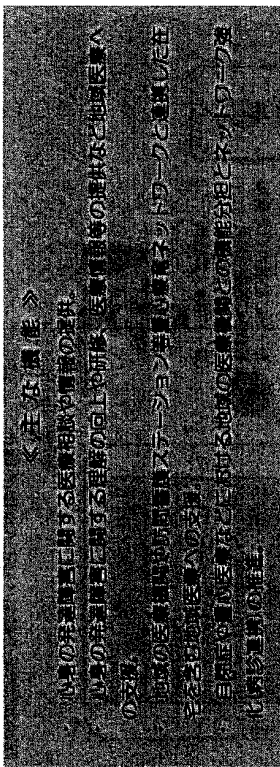


安心して地域の医療機関にかかるとのことのできる環境づくり」と「医療機関間の機能分担と連携の強化」という二つの側面から、心身の発達障害者に関する医療ネットワークづくりを進め、地域の医療の充実を進めていきます。（詳しくは、次の「2 地域医療への支援と心身の発達障害に関する医療ネットワーク」を参照。）。



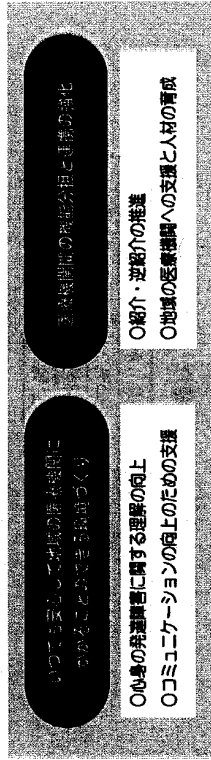
心身の発達に障害のある人の地域生活への移行に伴い、地域の医療機関が果たすべき役割はますます大きくなっていくことから、豊富なノウハウと経験を有する専門病院として、地域医療の充実に向けた支援を進めていくことも重要です。

今後、中央病院では、医師会、歯科医師会等関係機関の協力を得ながら、大学病院や国公立病院、民間病院、そして、かかりつけ医である診療所等と密接に連携した、心身の発達障害に関する医療ネットワークづくりを進めていきます。

具体的には、中央病院に、在宅・地域医療支援部門を新たに設け、「いつでも安心して地域の医療機関にかかるとのことのできる環境づくり」と「医療機関間の機能分担と連携の強化」という二つの側面から、心身の発達障害に関する医療ネットワークづくりを進め、まずは、地域生活を営む上で医療面でのサポートが不可欠な重症心身障害者と、人と関わることや自分の気持ちを伝えたりすることが困難な自閉症の二つに重点を置いた地域医療への支援を行っていきます。

中央病院が位置する尾張北部医療圏からネットワークづくりを進め、平成 19 年度以降その実施状況を踏まえ、県全域へ順次ネットワークを拡大していきます。

【地域医療への支援と心身の発達障害に関する医療ネットワークづくり】



地域医療への支援と心身の発達障害に関する医療ネットワークづくり

【コロニー中央病院がめざす方向（イメージ）】

心身の発達障害者に関する医療機関間の連携の強化

小児内科・成人内科・小児神経科・小児外科・外科・整形外科・脳神経外科・成人精神科・眼科・歯科・口腔外科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科等

障害者医療の専門病院に求められる基本的診療科の充実

医療機関間の機能分担と連携の強化

障害の早期発見・早期治療の観点等から、今後力を入れていく分野と、想定される診療科の例

- ◆周産期医療分野
 - 新生児内科・新生児外科
 - 新生児脳神経外科
 - 産科・母性内科
- ◆減圧診療分野
 - 減圧診療科
- ◆精神発達障害医療分野
 - 児童精神科
- ◆在宅・地域医療支援

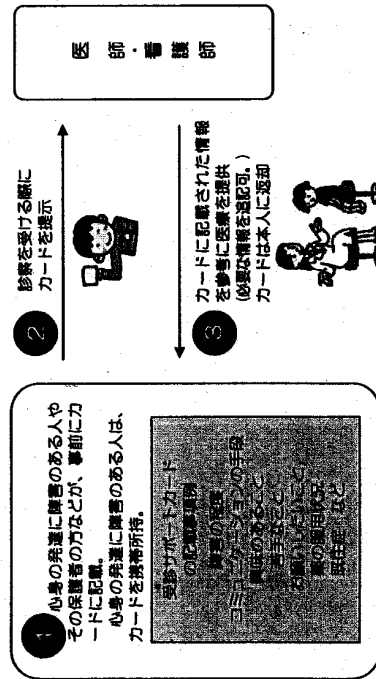
1 いつでも安心して地域の医療機関にかかることのできる環境づくり

- 心身の発達障害に関する理解の向上

心身の発達に障害のある人が、身近な地域で安心してできる医療を受けるためには、医師や看護師等に対して障害に関する理解の向上を望む声も多く聞かれます。今後、中央病院では、心身の発達障害に関する専門病院としてのノウハウを生かし、自閉症など心身の発達障害をテーマとしたシンポジウム等を定期的に開催するなど、地域の医療機関に対する心身の発達障害に関する理解の向上に努めていきます。
- 受診サポートカードを活用したコミュニケーションの向上のための支援

心身の発達に障害のある人と医療機関側とのコミュニケーションの向上に役立っていただくため、心身の発達に障害のある人の障害の程度、特徴、コミュニケーションの手段などを記載することができる受診サポートカードを作成します。まずは、平成 19 年度から、地域生活へ移行していくコロナ一入所者と中央病院の利用者を対象にカードを配布し、その活用状況を踏まえながら、順次利用者の拡充を図っていきます。

【受診サポートカード活用のシステム】



2 医療機関間の機能分担と連携の強化

- 紹介・逆紹介の推進

心身の発達に障害のある人がそれぞれの病態に応じて適切な医療機関を受診できるためには、心身の発達障害の医療の専門病院である中央病院と、大学病院や、

地域医療の確保に主体的に取り組み公立病院、民間病院、そして、かかりつけ医として地域医療を支える診療所が、その機能を分担し、密接に連携していくことが必要です。

中央病院では、地域の医療機関からの紹介患者をさらに増やし、高度で専門的な医療を必要とする患者への医療の提供を進めていく一方、プライマリケアなど地域の医療機関で対応可能な患者や、中央病院において高度で専門的な治療を求め、なお継続的な治療が必要な患者に対しては、地域の医療機関への逆紹介を行います。連携医療機関との機能分担を進めていきます。

具体的には、心身の発達障害に関する医療ネットワークの中核的位置づけを指す観点から、紹介率 60% 超、逆紹介率 30% 超を目標とします。

【中央病院における紹介・逆紹介の状況】

| | 紹介率 | 逆紹介率 |
|----------|-------|-------|
| 平成 15 年度 | 42.5% | 9.3% |
| 平成 16 年度 | 51.8% | 11.0% |
| 平成 17 年度 | 40.1% | 24.6% |

○ 地域の医療機関への支援と人材の育成

中央病院では、これまで培ってきた豊富な経験と知識を生かし、心身の発達障害に関する医療上のノウハウや有用な医療情報の提供、講習会の開催などに取り組むほか、研修医等今後心身の発達障害に関する医療に携わっていく人材の育成にも努め、地域医療に対する多面的な支援を展開してまいります。

特に、重症心身障害など日常的に医療ケアが不可欠な障害のある人とその家族にとつては、身近なかかりつけ医による指導・支援が可能となれば、地域生活を営む上で大きな支えとなります。

中央病院では、こばと学園と連携を図りながら、地域の医療機関に対して、重症心身障害に関する医療のノウハウや技術等の指導を積極的に行っていきます。

コロナー中央病院将来ビジョン検討の結果について

1 課題及び検討事項

○当初の再編計画を前提に医療支援部門の必要病床数について検討を行ってきたが、深刻な医師不足により、22年4月から常勤医師の欠員が新たに発生し、再編計画を修正せざるを得ない状況となった。

○医師の派遣元となる医学部を有する県内四大学を含めた関係者の意見を聞き、医師派遣が可能となるようコロナーの医療支援部門が担うべき機能を検討した。
再編計画で重点化している4分野のうち、周産期医療分野と精神発達障害医療分野について、次の方向性を見出した。

2 検討結果及び今後の取組

| 現状と課題 | 将来ビジョンの検討結果 | 取組を進めるに当たっての課題 |
|---|--|---|
| <p>【新生児内科医】 配置変更:5名→3名(4/1)→1名(7/1)→0名(10/1) 移動理由:周産期医療に救急対応が求められていることから、救急対応可能な病院内の周産期医療充実のため、診療制限:24時間対応の新生児センター(NICU9床を含む40床)への内科疾患患者受入れ休止(5/6~)により対応</p> <p>【脳神経外科医】 配置変更:2名→0名(4/1) 移動理由:あいち小児保健医療総合センターの救急医療提供開始のため、結果的に、コロナー中央病院から移動 診療制限:脳神経外科手術を中止(外来は移動医師の非常勤で対応:週1日) 対応:移動先のあいち小児保健医療総合センターで対応</p> | <p>【NICU 後方病床機能】 他の医療機関のNICUから長期入院患者を受け入れ、コロナーに蓄積したノウハウを活かして在宅移行の働きかけを行うとともにレスパイト入院を保障し、安定した在宅生活を支援する。もって、県の周産期医療システムの円滑な運用に貢献する。</p> <p>① 在宅支援病床(仮称)の開設に向けて、準備を進めていく ② 受入対象患者について、NICUを経て紹介元の病院が転院を可とし、保護者が在宅移行に同意した児童とする。 ③ レスパイト入院は、在宅支援病床(仮称)を利用した者以外にも希望があれば、中央病院受診後、可能な限り受け入れる。 ④ 今後、在宅支援室(仮称)、母児同室病床(仮称)等の組織、設備の新設等をして、万全な受け入れ体制を構築していく。</p> | <p>医師の派遣元となる四大学との調整(新生児内科医の派遣:産休明け医師等) 在宅支援病床運営計画の具体化についての検討(規模、運営方法等(在宅支援室を含む。)) レスパイト入院の実施についての検討(7/1から試行実施)</p> |
| <p>【児童精神科医】 配置変更:3名(19.4.1)→1名(4/1) 減員理由:自己都合による退職。 診療制限:入院患者は医療保護入院で扱った患者がリポートするのみ、外来は一時新患の取扱いを中止していたが、21.7から紹介等の条件を付して再開する。 対応:城山病院・あいち小児保健医療総合センターから派遣名大医学部からの非常勤1名</p> | <p>【発達障害に関する総合的拠点機能】 コロナー内に設置している「あいち発達障害者支援センター」や「発達障害研究所」の機能を活用することにより、より効果的・効率的な対応が可能となるよう、従来取り扱ってきた知的障害を伴う患者に加え、知的障害を伴わない発達障害の患者も対象範囲とする。</p> <p>【研修システム】 コロナー中央病院で担うこととして検討する機能は、急性期を扱う機会が少ないことから、派遣される医師のモチベーションを上げる(更には医師派遣のローテーションを確立する)ため、医師の人材育成について、「発達障害研究所」の機能を活用するとともに、研修システムの構築を四大学と協議する。</p> | <p>(関係病院との調整) ・病院事業庁所管病院(あいち小児保健医療総合センター、城山病院)との医師の交流 ・あいち小児保健医療総合センター、城山病院との間で児童精神科の機能・役割の調整</p> <p>(医学部を有する四大学との調整) ・障害者の専門病院として、障害者を診ることができる医師を育成できる医師の養成システムの構築 ・コロナーに併設の発達障害研究所での研究機会の確保</p> |